

2016 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	統括：大学自己点検・評価委員会	担当：学務局長、管理部、東松山事務部、図書館、情報センター、学務部
評価基準 7	教育研究等環境 【自己評定 B】	
点検・評価項目(1)	7-1 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。	
評価の視点	学生の学習および教員による教育研究環境整備に関する方針の明確化 【学務局長】	
	校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画 【学務局長】	
点検・評価項目(2)	7-2 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。	
評価の視点	校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成 【管理部】【東松山事務部】	
	校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保 【管理部】【東松山事務部】	
	スクールバスの運行の適切性 【管理部】【東松山事務部】	
点検・評価項目(3)	7-3 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。	
評価の視点	図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性 【図書館】	
	図書館の規模、開館状況（日数・時間）、座席数、情報検索機器の整備状況とその適切性 【図書館】	
	司書資格などの専門能力を有する職員の配置および職員養成のための取り組み状況 【図書館】	
	国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備 【図書館】	
点検・評価項目(4)	7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。	
評価の視点	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 【管理部】【東松山事務部】【情報センター】	
	ティーチング・アシスタント（TA）・リサーチ・アシスタント（RA）・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 【学務部】	
	教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保 【学務部】	
点検・評価項目(5)	7-5 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。	
評価の視点	研究倫理に関する学内規程の整備状況 【学務部】	
	研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性 【学務部】	
点検・評価項目(6)	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。	
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【学務局長】	

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

7-1	<p>【学務局長】</p> <p>本学は 2014 年度に、大学基準の 10 の基準に則して「大東文化大学基準別基本方針」を制定し、その一つとして「教育研究等環境の整備に関する方針」を定めた。校地・校舎、施設・設備、図書館、教育支援環境、研究環境等の整備に関するこの基本方針は、ホームページで公表しているほか、『大東文化大学 将来ヴィジョンと基本方針』（2016 年 2 月総合企画室発行）に記載し、教職員に周知を図っている。その内容は、以下のとおりである（B7-1）。</p> <p style="text-align: center;">教育研究等環境の整備に関する方針</p> <p>《基本方針》</p> <p>本学の教育研究上の目的を達成するために、大学設置基準に定められた規程を遵守しつつ、高等教育機関にふさわしい教育研究等の環境整備を行う。教育環境については、学生一人ひとりが学習に専念できるよう、校地・校舎、施設・設備の適切な維持管理・新設とともに、キャンパス・アメニティを充実させ、快適な学習・生活環境を整える。また、学習支援の場として図書館機能の強化を図る。研究環境については、教員がその研究力を最大限に発揮できる環境を保証するため、ハードとソフトの両面で環境整備を進める。併せて、地域に開かれた大学として、地域社会と共生するキャンパスづくりを行う。</p> <p>1. 校地・校舎、施設・設備</p> <p>（１）長期的なビジョンの下に校地・校舎、施設・設備の整備計画を立て、効率的な整備を進める。</p> <p>（２）老朽化した校舎・施設・設備の更新・整備とともに、教室・研究室等の安全・衛生に留意した環境整備（換気・照明・清掃等）と一層のバリアフリー化を進める。</p> <p>（３）板橋キャンパスについては、学生・教職員の教育研究とコミュニケーションの場としてのアメニティ空間の充実を図り、人と環境にやさしい都市型キャンパスを目指す。</p> <p>（４）東松山キャンパスについては、整備事業計画の第 3 期工事を着実に進め、自然環境に配慮しつつ、快適な教育研究環境を創出する。</p>
-----	--

	<p>(5) 緑山キャンパス（東松山市立旧緑山小学校跡地）については、スポーツ施設・学生寮としての利用を視野に入れつつ、地域住民に開かれたキャンパスとして、具体的な整備計画を策定する。</p> <p>(6) 防災・減災に備えた訓練を実施し、防災備品等を充実させることにより、自然災害に対応できるキャンパスづくりを進める。また、自然災害の発生に備え、帰宅困難者や地域住民への迅速な支援ができるキャンパスを目指す。</p> <p>(7) 地域に開かれた大学として、地域住民との交流や研究発表等のための施設開放を進め、地域社会と共生するキャンパスを目指す。</p> <p>(8) 学生・教職員が過ごしやすいキャンパスとするために、食堂をはじめとした福利厚生施設（キャンパス・アメニティ）の充実を図る。</p> <p>(9) スクールバスについて、利用者の利便性を高める運行を目指すとともに、限られた資源のなかで合理的な運行管理を行う。</p> <p>2. 図書館</p> <p>(1) 学生の自ら学ぼうとする意欲を喚起し支援するための体制を整備し、ラーニングコモンズの設置を図る。</p> <p>(2) 本学で生産された知的生産物および本学が収集した貴重な資料を電子上で長期保存し、これを国内外に向けて発信するために「大東文化大学機関リポジトリ」を構築する。</p> <p>(3) 教職員および学生の研究活動を支援するため、本学の学部・学科および研究科の研究分野を網羅する図書・学術雑誌・視聴覚資料を体系的に収集し保存する。特に、電子ジャーナルおよびデータベースの採用を積極的に進め、資料への迅速かつ簡易なアクセスを保証する。</p> <p>(4) 情報リテラシー教育のさらなる向上のためにゼミガイダンスを充実させる。その実現のために情報センターとの密接な連携を図り、職員の情報リテラシー教育支援に関するスキルアップを図る。</p> <p>(5) 他大学・研究機関との連携を強化し、教育研究に関する情報および知的財産の共有化を図る。また、地域住民に対し知的空間を開放し、地域社会への貢献を行う。</p> <p>(6) 本学は、国際化に伴い多くの留学生および外国人客員研究員を受け入れている。これらの人々が円滑に資料の検索、収集ができるよう支援体制を充実させる。</p> <p>3. 教育支援環境</p> <p>(1) 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備を図る。</p> <p>(2) ティーチング・アシスタント（TA）、およびリサーチ・アシスタント（RA）、技術スタッフ等を適切に配置するとともに、ピアサポート、チューター制度の充実を図る。</p> <p>(3) ICT（情報通信技術）を活用した授業および教育支援体制の充実と情報セキュリティの確保・強化を図る。</p> <p>4. 研究環境</p> <p>(1) 教員の研究費・研究室および研究専念時間を確保する。</p> <p>(2) 附置研究所の配置と運営体制を整備する。</p> <p>(3) 研究会、セミナー、シンポジウムなどの開催および学術雑誌の刊行を進める。</p> <p>(4) 本学が研究倫理に関して定めた「大東文化大学学術行動憲章」「研究倫理指針」等を適切に運用する。</p> <p>(5) 海外の諸研究機関ならびに事業機関との学術交流や共同事業などのグローバルな研究を推進・展開するための環境整備を図る。</p> <p>5. 教育研究等環境の適切性についての定期的な検証</p> <p>教育研究等環境の適切性については、毎年度実施する自己点検・評価において定期的に検証する。また、環境整備は学園の事業計画に盛り込み、学園理事会等において検証と審議を行う。</p> <p>なお、本学は板橋校舎および東松山校舎について、整備事業計画に基づき、教室棟の建て替えなど大規模な施設・設備の整備を行ってきたが、前者の整備事業は 2006 年度に、後者は 2014 年度に完了している（B7-2）。</p>
7-2	<p>本学は教育研究施設として板橋校舎、東松山校舎、信濃町校舎の 3 つを持っている。これら 3 校舎を合わせた校地面積および校舎面積は、別表のとおり、それぞれ 277,153.9 m²、145,258.2 m²で、大学設置基準で必要とされる面積 103,600.0 m²、49,417.0 m²を満たしている。運動場等の施設についても、東松山校舎と板橋校舎に整備されている（d1-表 5）。</p> <p>上記の 3 校舎のほか、閉校になった東松山市立緑山小学校跡地を 2008 年度に取得した緑山キャンパスがあるが、現在のところクラブ活動や地域活動の施設として一部が利用されているだけで、教育研究用には使われていない。また、東武東上線東武練馬駅近くには大東文化会館があり、生涯学習講座（オープンカレッジ）、研究会・研修会、講演会、特別講義などに利用されている。</p> <p>以下では、板橋校舎、東松山校舎の別に、整備状況を述べる。（信濃町校舎は、法務研究科で点検・評価シート作成）</p> <p>＜板橋校舎＞【管理部】</p> <p>(1) 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成</p>

板橋校舎は、整備事業計画の基本コンセプトとして、「人と環境にやさしい都市型キャンパス」を掲げ、学生の快適なキャンパスライフと地球環境への負荷低減の両面を追求した校舎である。5つの建物には講義室、演習室、学生自習室、研究室、図書館、また食堂・売店等の福利厚生施設、部室その他が機能的に配置されている。

キャンパス内には、「交流の杜」「思索の杜」と呼ぶ地上の緑地部分や、中央棟・図書館の5階、3号館の4階および5階、体育館・厚生棟4階の一部に芝生のスペースを設け、緑化することで熱を吸収し、ヒートアイランド対策を行い、大気を浄化し、CO2排出抑制に寄与している。また、3号館では、環境共生への対応として、屋根に風力発電装置と太陽光パネルを設置している。

さらに、キャンパス・アメニティとして、「交流の杜」「思索の杜」にはベンチ等、また年間を通して色とりどりのプランターを設置し、学生の交流・談話スペースとして活用されている。3号館1階の吹き抜け広場および体育館・厚生棟前（スチューデントプラザ）にもテーブルセットを設置し、授業の休み時間に利用されている。課外活動の拠点となる部室については、体育館・厚生棟に学生自治会をはじめ体育系・文化系クラブのすべてが集約されており、緑地帯を囲って学生たちのコミュニケーションの場となっている。

福利厚生施設としては、食堂2、文具等を扱う購買部1、書店1、コンビニエンスストア1、その他学外者も利用可能な郵便局がある。

（2）校地・校舎、施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保

校地・校舎、施設・設備の維持・管理については、管理部管理課が老朽化への対応などに関する年次計画を検討している（B7-23）。

安全・衛生の確保については、教室・研究室等の衛生環境（換気・照明・清掃等）に配慮し、空気環境測定・照度測定・害虫等の駆除を実施している。キャンパスの建物内はすべて禁煙とし、喫煙場所は受動喫煙に配慮した場所を指定して、分煙活動を徹底している。ゴミについても、分別を徹底して処分している。

大規模災害などへの対応として、事務職員を中心に自衛消防隊を組織し、学生・教職員の全員参加による大規模総合訓練を実施するほか、水消火器やAEDを使った部分訓練を行っている（B7-3）。また、各種の事故を未然に防止するために、日常の自主点検（安全な共有通路の確保、防火シャッター・防火扉を妨げる妨害物の有無の確認など）を行うとともに、緊急地震速報自動受信装置を導入し、非常災害に備えている。さらに、毎年1回は防災管理点検資格者および消防署の指導を受けながら、防災・減災の対策を講じている（B7-4）。非常時への備えとして、飲料、固形食糧、簡易トイレ等の購入・備蓄を進めている。

障がいをもつ学生等のためのバリアフリーに関しては、円滑な通行を保証するため、校舎各棟の出入り口はすべて自動扉を設置し、キャンパス内のスロープにはラインを引き注意を喚起しているほか、各棟の階段には点字ブロックおよび手すりを設置している。

（3）スクールバスの運行

東武東上線東武練馬駅から徒歩3分にある大東文化会館に発着場を設け、板橋キャンパスとの間で無料のスクールバスを運行している。通常授業時の運行は、会館発が7時45分～20時50分、板橋キャンパス発が8時10分～20時50分（B7-5）。スクールバスは6台で、うち5台は障がい者対応のノンステップ機能を備え、他の3台は手動によるステップで対応している。また、利用者がスムーズに乗降できるよう誘導員を配置している。

＜東松山校舎＞【東松山事務部】

（1）校地・校舎の整備状況とキャンパス・アメニティの形成

1967年（昭和42年）に開設された東松山校舎は、1～2年次生を中心に約7,000名が学んでいる。板橋校舎が都市型キャンパスであるのに対し、埼玉県西部の比企丘陵に立地する東松山校舎は、広大な敷地と豊かな自然環境に恵まれた郊外型キャンパスである。開設時の校舎建設に続いて、1983～1988年に県道212号線を挟んで北側敷地の整備を進める第2期大規模整備事業、2010～2014年に南側敷地を中心とする第3期整備事業を行った。

この第3期整備事業により、老朽化した建物の建て替え（1号館、11号館を除く）、北側敷地と南側敷地の教室面積の不均衡の解消、食堂・売店・宿泊施設等の福利厚生施設の充実、国際交流のための空間および自習・グループ学習ができる多目的空間の整備、学生が授業外の時間を快適に過ごすことのできるアメニティ施設の拡充を図った。

教育研究施設としては教室・研究棟12、図書館1、講堂1などが配置されている。また、東松山キャンパスは、運動部および文化団体の活動の拠点であり、総合グラウンド・野球場・ラグビー場・テニスコート・体育館・プール・多目的ホール・部室などが整備されている。福利厚生施設として、食堂5、文具等を扱う購買部3、書店1、コンビニエンスストア1、郵便局がある。

（2）校地・校舎、施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保

校地・校舎、施設・設備の維持・管理については、東松山管理課が維持・改修などに関する年次計画を策定し、適切に行っている（B7-24）。安全・衛生の確保についても、東松山管理課・東松山学生支援課を中心に万全の対策を講じている。キャンパスの建物内はすべて禁煙とし、喫煙場所は受動喫煙に配慮した場所に喫煙ルーム5、屋外の喫煙スペース1を設置し、分煙を徹底させている。

バリアフリーについては、古い教室棟である1号館（1967年建設）、11号館（1973年）を除いて自動扉、手すり、スロープ

	<p>などの設置が終わっているが、キャンパスが高低差のある丘陵地に立地し、身体に障がいをもつ学生にとってスムーズな移動が容易でないところもあるため、必要に応じて見直しと改善を図っている。1号館、11号館については、障がいをもつ学生が移動等に支障がないよう配慮を行っている。</p> <p>災害への対策としては、緊急避難場所を定めているが、東松山キャンパス整備事業が完了したので、全体の体制の仕組みの再検討が必要である(B7-4)。また、大規模災害などに対応するため、事務職員を中心に自衛消防隊が組織されているが、総合的な避難訓練は実施していないので、実施に向けた準備を進めているところである。非常時に備え、飲料・固形食糧等の備蓄を進めている。</p> <p>(3) スクールバスの運行</p> <p>東武東上線高坂駅および JR 高崎線鴻巣駅と東松山キャンパスを結ぶ無料のスクールバスを運行している(B7-5)。通常授業時の運行は、高坂便の駅発が8時00分～20時45分、大学発が7時50分～21時00分、鴻巣便の駅発が7時45分～17時40分、大学発が8時45分～20時10分。通常運行のスクールバスは合計で18台、そのうち高坂便1台がノンステップ、9台がワンステップの障害者対応の車両である。また、利用者がスムーズに乗降できるよう誘導員を配置している。なお、東松山校舎～高坂駅間では、障がいをもつ学生のためにリフト付き専用車を配備し、送迎支援を行っている。</p>
7-3	<p>《板橋校舎・東松山校舎》【図書館】</p> <p>(1) 図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況</p> <p>大東文化大学図書館規則(B7-6)第6条に基づき設置された図書館運営委員会のもとに、板橋図書館および東松山図書館に、それぞれ図書館資料選書委員会を置き、各学科・研究科および各分野等から選出された選書委員が、年3回、資料の選書・収集方針を審議して適切な蔵書の収集に努めている。その結果、学部・学科、研究科に必要な基本書および専門書、学術雑誌等が和書・洋書を問わず幅広く所蔵されており、蔵書数は、両図書館合わせて図書147万余冊、雑誌1万余タイトルに達する。</p> <p>また、電子ジャーナルの導入を進めており、オンラインデータベース(24種類)や電子ジャーナル(119タイトル)の閲覧が可能である。オンラインデータベースから閲覧可能な電子ジャーナルの全タイトル数は46,923に上る(A7-1、A7-2、A7-3、B7-7、B7-8、B7-30 d2-表 48)。</p> <p>「国立国会図書館図書館向けデジタル化資料送信サービス」の導入に向けて申請手続きを行うとともに、平成27年7月の図書館運営委員会においてこれに関する内規を制定し同サービスの利用が12月15日より可能となった。(根拠資料あり)</p> <p>電子書籍の資産化に関する財務部との打ち合わせにより、その方法が確定し、課内に周知し購入が実現した。</p> <p>本図書館が保有する貴重な資料の展示およびHPへの掲載に向けた準備を進める。</p> <p>(2) 図書館の規模、開館時間、閲覧室等の座席数、情報検索機器等の利用環境</p> <p>本学の図書館は板橋校舎と東松山校舎に設置されている(A7-1)。板橋図書館(中央棟図書館)は地下1階、地上5階、総面積4,305.99㎡で、閲覧室・個人研究ブース・情報検索コーナー・貴重図書資料室・グループ学習室・ラーニング・コモンズ・自動架書庫・事務所等を配置している。このほか、キャンパスに隣接して総面積1,437.34㎡の書庫棟を置いている。東松山図書館(60周年記念図書館)は地下2階、地上4階、総面積8,916.33㎡で、閲覧室・情報検索コーナー・参考図書室・ラーニング・コモンズ・個人研究ブース・グループ学習室・AVホール等を配置している。</p> <p>2015年度の開館日数は、板橋図書館272日(2,729時間)、東松山図書館269日(2,728時間)である。開館時間は、通常期間平日9時～20時30分、土曜日9時～16時30分。長期休業期間平日9時～17時、土曜日9時～12時。定期試験対応として、試験期間前および期間中の開館時間を30分繰り上げ、また土曜日の閉館時間を前期は6月、7月、後期は12月、1月に18時30分まで延長している(B7-8、B7-30 d2-表 49)。</p> <p>座席数は、両図書館合わせて1,759席あり(板橋713席、東松山1,046席)、収容定員に対する座席数の割合は、板橋15.2%、東松山17.3%である(B7-30 d2-表 50)。</p> <p>情報検索機器等の利用環境については、両図書館内に自由に使えるインターネット用PCを205台設置し、OPAC(オンライン蔵書目録)、古典籍目録、オンラインデータベース、電子ジャーナルなどが検索できるようにしている(A7-2)。図書館のホームページにはCiNiiBooks(国立情報学研究所のデータベース)、国立国会図書館および大学図書館関係のサーバーなどのリンクを貼り、利用に供している。また、OPACの利用法を解説した動画を作成してホームページに掲載し、初年次生に親しみやすい図書館を目指している(A7-3、B7-8)。</p> <p>(3) 司書資格などの専門的能力を有する職員の配置および職員養成のための取り組み</p> <p>司書資格を有する職員は、2016年5月1日現在、5名が板橋図書館に、7名が東松山図書館に配置されている(B7-30 d2-表 49)。さらに、レファレンス対応や、書誌データの作成などのスキルアップを目指して、専任、専門嘱託、臨時職員を問わず、積極的に学外の講習会に参加しており、2015年度は延べ57人が参加した。また、自発的な学内研究会や勉強会を行っている。なお、研修・講習会に参加した者は、必ず報告書を作成して部内回覧を行い、図書館事務部全体で情報を共有する体制を構築している。</p> <p>(4) 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備状況</p> <p>他大学、公共図書館、国立国会図書館および国外機関からの図書の貸出(275件)や文献複写の依頼(467件)を受け入れ、</p>

	<p>また当館から依頼（貸出 108 件、文献複写 263 件）するなど相互協力を積極的に行っている（2015 年度実績）。また、懸案であった機関リポジトリを構築し、2014 年 2 月、NII（国立情報学研究所）への登録をもって正式に公開した（B7-8）。</p> <p>（５）ラーニング・コモンズの開設と運用</p> <p>板橋および東松山図書館に 2014 年度、ラーニング・コモンズを開設した。板橋図書館は 329.32 m²、座席数 151、東松山図書館は 120.17 m²、座席数 36 で、ゼミの授業や準備、プレゼンテーションの打ち合わせ等に利用されている（B7-30 d2-表 50）。机・椅子ともに可動式で、フレキシブルな利用ができる。また、両図書館ともラーニング・コモンズ内に学習支援コーナーを設け、教員と大学院生が相談員となって、レポート等の作成や資料の探し方から大学での学修の仕方まで、学生の相談に応じている（B7-8）。</p>
7-4	<p>（１）教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備</p> <p>＜板橋校舎＞【管理部】</p> <p>板橋校舎は、大東文化会館を含めて、講義室67室5,792.86m²、演習室16室454.71m²、学生自習室（大学院生研究室を含む）24室1,412.09m²、実習室26室1,750.40m²、合計面積9,410.06m²である。2016年5月1日現在、板橋校舎に在籍する学生数（大学院を含む）4,874名で割った学生一人あたりの利用面積は、1.57m²である（B7-30 d2-表47）。</p> <p>設備に関しては、講義室は90%、演習室は100%、実習室は81%の割合でVHS/DVD・プロジェクター・スクリーン・LAN端子のいずれかを設置しており、パワーポイントによる授業やVHS・DVDを使った授業が可能である。</p> <p>＜東松山校舎＞【東松山事務部】</p> <p>東松山校舎は、講義室132室15,381.08m²、演習室28室1,311.35m²、実習室57室4,924.60m²、自習室・院生研究室5室343.28m²、合計面積21,960.31m²である。2016年5月1日現在、東松山校舎に在籍する学生数（大学院を含む）6,885名で割った学生一人あたりの利用面積は、3.19m²となる（B7-30 d2-表47）。東松山校舎は、第3期整備事業で建設した5つの建物を中心に、ミーティングルームやラウンジ、屋内テラス、エントランスを各所に設け、テーブルと椅子を置いて、学生の自習やグループ学習ができるようにしている。</p> <p>設備に関しては、講義室は89%、演習室は86%、実習室は70%の割合でVHS/DVD・プロジェクター・スクリーン・LAN端子のいずれかを設置しており、パワーポイントによる授業やVHS/DVDを使った授業が可能である。</p> <p>（２）板橋校舎・東松山校舎における情報処理機器の整備状況【学園総合情報センター】</p> <p>スマートフォン、タブレット端末の利用が増えている現状を踏まえ、無線LANアクセスポイントを設置当初の80台（板橋キャンパス20台、東松山キャンパス60台）から約300台（板橋キャンパス100台、東松山キャンパス200台）へと増強し、キャンパス全体で利用できる無線LAN環境を提供している（B7-9）。</p> <p>板橋キャンパスの情報実習教室7室と図書館に約360台、東松山キャンパスの情報実習教室17室と図書館に約790台のパソコンを設置し、授業・レポート作成・自主学習・就職活動等、幅広く利用できる環境を整備している。併せて、貸出用パソコンとして板橋キャンパスに約80台、東松山キャンパスに約40台、またビデオカメラ等の貸出機器を準備し、学生へのサービス向上を図っている。情報機器については、板橋キャンパス、東松山キャンパスとも4～5年に1回更新を行い、教育研究活動の状況に合わせてソフトウェアや教室設備を整えており、両キャンパスの情報機器の整備状況に大きな差はない（B7-9）。</p> <p>また、遠隔授業ができるシステムを導入して、キャンパス間の移動を軽減することにより学生が履修しやすい環境を提供している。</p> <p>更に、学生のWeb履修に対応するため、板橋キャンパス、東松山キャンパスのインターネット回線およびキャンパス間回線を1Gbpsに増強した。</p> <p>（３）ティーチング・アシスタントなど教育研究支援体制の整備【学務部】</p> <p>本学は「教育補助員規程」（1993年制定）により、学部・学科および研究科に置くことのできるティーチング・アシスタントの職務・資格等を定めている（B7-10）。また、学部・学科の教員の教育研究を補佐することを目的として、「研究補助員規程」（1990年制定）により、研究補助員を置いている（B7-11）。法務研究科では、「法務研究科学習指導員規程」（2004年制定）により、法務研究科修士で司法試験に合格した学習指導員による学習相談制度を設けている（2015年5月1日現在、10名）（B7-12）。教育補助員および研究補助員の配置状況は、別表のとおりである（d1-表2）。</p> <p>（４）教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保【学務部】</p> <p>個人で行う学術研究の助成を目的として、専任教員（教授・准教授・講師）に年額40万円、助教に年額28万円、特任教員に年額40万円、特任実習助手・実習助手に年額20万円の一般研究費が支給されている（B7-13大東文化大学一般研究費使用要領 第2条、B7-30 d2-表43）。また、大学独自の競争的資金として、特別研究費制度が設けられている（B7-14、B7-30 d2-表45）。</p> <p>専任教員が学術研究に専念することを目的として、国内の研究機関に教員を派遣する国内研究員制度、海外の研究機関に海外研究員、海外出張者、海外留学生として派遣する海外派遣制度が整備されている（B7-15、B7-16、B7-30 d2-表44）。また、専任教員の長期的視点における教育研究水準の向上を図ることを目的とした、特別研究期間制度（サバティカル）が設けられ</p>

	<p>ている (B7-17、B7-30 d2-表46)。</p> <p>学士課程における専任教員の担当コマ数は、週6コマを原則としており、国内研究員制度、海外派遣制度、特別研究期間制度と併せ、教員の研究専念時間は十分に確保されている。</p> <p>研究室については、専任教員、特任教員、助教は1人1部屋ずつ確保されている。</p>
7-5	<p>（１）研究倫理に関する学内規程の整備と運用【学務部】</p> <p>研究倫理については、2008年制定の「大東文化大学学術研究行動憲章」および「大東文化大学研究倫理指針」において、本学の研究活動に携わるすべての者が遵守すべき行動規範、指針を定めている。また、倫理指針に定める事項を適切に運用するとともに、問題が生じた場合の調査および措置を講ずることを目的として、全学の研究倫理委員会が設置されている (B7-18)。研究活動における不正行為の防止と、不正行為が発生した際の取り扱いについては、「大東文化大学研究活動の不正行為に関する規程」において定められている。この規程では研究活動の不正行為を定義し、それらを禁止するとともに、不正行為を事前に防止するために、研究倫理教育責任者、同副責任者、研究倫理教育推進責任者、同副責任者を置き、研究倫理教育の推進を図っている。</p> <p>このほか、「大東文化大学公的研究費の適正管理に関する規程」および「大東文化大学公的研究費の支出管理に関する取扱要領」では、研究費のうち、科学研究費助成事業をはじめとする公的機関等より交付される研究費の適正な運営・管理体制について定めている (B7-19)。</p> <p>大東文化大学研究活動の不正行為に関する規程、大東文化大学公的研究費の適正管理に関する規程、大東文化大学公的研究費の支出管理に関する取扱要領は、2014年改正の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」および「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（文部科学大臣決定）に対応すべく改正が行われた。これにより、不正の防止体制が確立されただけでなく、研究活動の不正行為および公的研究費の不正使用が認定された場合の手続きについても、2012年制定の「学校法人大東文化学園職員懲戒規程」「学校法人大東文化学園職員の懲戒処分に関する指針（ガイドライン）」において定められることとなった (B7-20)。</p> <p>なお、研究倫理委員会の発足後、研究倫理指針に反するとの疑義が持たれて同委員会で審議に付された案件は、2件である。学部・研究科の体制としては、スポーツ・健康科学部およびスポーツ・健康科学研究科が研究倫理審査委員会および動物実験委員会を設置しており、前者は人を対象とした研究、後者は動物実験の研究倫理について、独自に審査を行っている (B7-21)。</p>
7-6	<p>【学務局長】</p> <p>教育研究等環境の適切性については、毎年度実施する自己点検・評価において定期的に検証する。また、環境整備については学園常務会等において、審議が行われる。これらの責任主体・組織、権限、手続きは各種規程において明確化されている。</p>
【効果が上がっている事項】	
7-1	<p>【学務局長】</p>
7-2	<p>【管理部】【東松山事務部】</p> <p>板橋校舎・東松山校舎とも、整備事業計画に基づき大規模な施設・設備の整備を行い、前者は2006年度に、後者は2014年度に完了した。このうち東松山校舎については、学生が授業外時間を快適に過ごせるアメニティ空間の拡充が整備事業の目的の一つであり、各所にラウンジ、屋内テラス、エントランス、またミーティングルームを設けたことで、アメニティ空間が充実した (B7-2)。</p> <p>東松山校舎は都心から遠距離にあり、最寄りの東武東上線高坂駅からも相当の距離があるため、スクールバスの円滑な運行が欠かせない。運行にあたっては、東松山校舎発バスの待ち時間の短縮が長年の課題であった。2014年4月に運行ダイヤの大幅な改正、高坂駅前乗降場の整備を行うことにより、バスの待ち時間が20分から6分程度に短縮され、懸案は解決された (B7-5)。</p> <p>また、2007年4月から導入した鴻巣便は、徐々に利用者が増え、JR高崎線沿線に居住する学生の通学手段として大きな成果を上げている。2015年4月の利用者数は、上り（鴻巣駅→大学）が平均438人、最大548人、下り（大学→鴻巣駅）が411人、552人である。</p>
7-3	<p>【図書館】</p> <p>板橋図書館・東松山図書館にラーニング・コモンズを開設し、学生の自主的な学修の場を提供している。また、ラーニング・コモンズ内に学習支援コーナーを設け、教員や院生を配置して学生のさまざまな学習相談に応じる体制を整えている (B7-8)。</p>
7-4	<p>【学務局長、学務部、管理部、東松山事務部】</p> <p>【学園総合情報センター】</p> <p>無線LAN環境の利用が増加傾向にある中、安定的なネットワーク環境の提供が以前からの課題であったが2015年度に改善を図り、現在では接続障害等の発生が大幅に改善されている。</p> <p>情報実習教室および図書館に設置のパソコン環境については、2015年度に新環境への更新準備、2016年度よりパソコン環境、AV環境（情報実習教室のみ）の更新を行い、学生および教員の教育研究活動に利用されている。</p>

7-5	【学務部】 2014 年度にコンプライアンス研修として、研究倫理委員会主催により、学園の全教職員を対象に研究倫理に関する研修会を行った。新日本有限責任監査法人を講師に、大学では教授会等に合わせて開催し、教員は計 212 名の参加があった(B7-22)。2014 年度は科学研究費補助金および厚生労働科学研究費補助金を受給している教員のみが対象であった CITI Japan による研究倫理の e ラーニング受講が、2015 年度からは、それを管理する立場にある教員、事務を取り扱う事務職員および新たに科学研究費に応募する教員についてもその対象としている (B7-19)。(2014 年度および 2015 年 12 月 11 日現在の修了者数:91 名)。
7-6	【学務局長】

【改善すべき事項】

7-1	【学務局長】 ・「基本方針」を「達成目標」に落とし込む際、数値目標などの具体性を欠く部分があり、改善が望まれる。
7-2	【管理部】 過去に実施された施設設備の修繕や改修工事履歴を参考に中・長期修繕計画を作成し、効果的な改修工事を行っていく必要がある。 ノンステップ機能を備えていないバスを、ノンステップ機能を有するバスに入れ替えるように委託会社に要望して行く必要がある。 危機管理体制は、学園全体(法人・大学・一高・幼稚園)として各部署の策定を推進する必要がある。 消防署指導参加による年に一度の学内での防災訓練を参考に、新しい防火マニュアルの策定を推進する必要がある。 板橋校舎は、狭い間取りのため、喫煙場所を現況より広げる事は難しい状況にあるが、受動喫煙防止のために具体的(分煙パトロール等)な取り組みが必要である。 【東松山事務部】 校舎・施設・設備の維持・管理 東松山キャンパス整備事業で使用継続が決定した 11 号館(旧 5 号館)の改修を行い、講義室の環境改善を行う。
7-3	【図書館】 ラーニング・コモンズの利用頻度、利用者の把握ができないため、板橋図書館に入退館システムを設置し、今後の運営に役立てる。
7-4	【学園総合情報センター】 2016 年度より情報実習教室および図書館に設置のパソコン環境の更新を行い、新たな環境にて授業等に利用されている。今後は新環境における安定稼働への取り組みや障害対応などのサポート体制を充実させていく必要がある。なお、2016 年度後期に情報教室を利用している教員対象に DB ポータルによるアンケートを実施し、入替後の新教室の評価を行う予定である。
7-5	【学務部】 研究倫理指針に盛り込まれている利益相反行為に関する規程が十分でないため、今後、兼職に関する規程とともに、整備していく必要がある (B7-18)。また、全学の研究倫理委員会とスポーツ・健康科学部、スポーツ・健康科学研究科が設置する研究倫理審査委員会との関係性が整理されていないことも課題である。
7-6	【学務局長】

本項目の根拠資料(データ類、裏付けとなる資料)

A7-1 「図書館利用案内」(日本語)(英語)(中国語)(韓国語) 「図書館フロアガイド」 「60 周年記念図書館利用案内」 「資料の探し方」 A7-2 蔵書検索 OPAC http://opac.daito.ac.jp/opac/ A7-3 大東文化大学図書館 OPAC の使い方 (YouTube 投稿動画) https://www.youtube.com/watch?v=xlJa7eFDD68 B7-1 『大東文化大学 将来ビジョンと基本方針』(2016 年 2 月総合企画室発行)《既出》B1-4 B7-2 東松山キャンパス整備事業 概要 大東文化大学板橋キャンパス整備計画建設工事(総合計画) B7-3 大東文化大学 板橋校舎 自衛消防訓練(総合訓練)実施要領 B7-4 緊急時対応の手引(2015.04) 防災対応マニュアル B7-5 大学ホームページ(学生生活スクールバス)時刻表 http://www.daito.ac.jp/campuslife/schoolbus/index.html B7-6 大東文化大学図書館規則 B7-7 大学ホームページ(図書館オンラインベース) http://www.daito.ac.jp/research/library/onlineindex/index.html B7-8 大学ホームページ(図書館) http://www.daito.ac.jp/research/library/index.html B7-10 大東文化大学教育補助員規程
--

B7-11 大東文化大学研究補助員規程
B7-12 大東文化大学大学院法務研究科学習指導員規程
B7-13 大東文化大学一般研究費使用要領、同細則、一般研究費科目別使途範囲等に関するガイドライン
B7-14 大東文化大学特別研究費交付規程
B7-15 大東文化大学国内研究員規則、同施行細則
B7-16 大東文化大学専任教職員海外派遣規則、同施行細則
B7-17 大東文化大学特別研究期間制度規程
B7-18 大東文化大学学術研究行動憲章 大東文化大学研究倫理指針 大東文化大学研究倫理委員会規程
B7-19 大東文化大学研究活動の不正行為に関する規程 大東文化大学公的研究費の適正管理に関する規程 大東文化大学公的研究費の支出管理に関する取扱要領
B7-20 学校法人大東文化学園職員懲戒規程
B7-21 大東文化大学スポーツ・健康科学部およびスポーツ・健康科学研究科研究倫理審査規程、研究倫理審査運営要綱、動物実験指針、動物実験委員会規程、動物実験施設飼養・保管マニュアル
B7-22 2014 年度コンプライアンス研修（研究倫理）アンケート回答
B7-23 平成 28 年度事業計画兼業務確認シート(案)（管理部）
B7-24 平成 28 年度事業計画兼業務確認シート(案)（東松山管理部）
B7-25 2014 年度第 1 回板橋図書館資料選書委員会議事録
B7-26 平成 27 年度 4・5 月スクールバス鴻巣便利用者調査
B7-27 大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html
B7-28 平成 28 年度事業計画兼業務確認シート(案)（図書館事務部）
B7-29 三宮紀彦公認会計士事務所公的研究費コンプライアンス研修 DVD お知らせ
B7-30 大学データ集 《既出》B1-22
＜大学基礎データ＞
d1-表 2 全学の教員組織
d1-表 5 校地、校舎、講義室・演習室等の面積
【追加資料】 大東文化大学図書館「国立国会図書館 図書館向けデジタル化送信サービス」運用に関する内規 国立国会図書館 図書館向けデジタル化送信サービス閲覧申込書 国立国会図書館 図書館向けデジタル化送信サービス資料複写申込書 B7-9 大学ホームページ（学園総合情報センター） http://www.daito.ac.jp/itc/

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	7-1 ＜学務局長＞ ・校地、校舎、施設・設備等の利用者の声を聞き、中期目標に反映させるシステムを整える。	・校地、校舎、施設・整備等の利用者の反応が吸い上げられているかどうか。 ・定期的上記を行っているか。 ・吸い上げた声を次の中期目標に反映できているかどうか。	→		C		
	7-2 ＜管理部＞ ・自然災害等に対応する危機管理体制の構築	・危機管理のための諸規程や体制が整備されている。			C		
	7-2 ＜管理部＞ ・避難マニュアルの見直し	・新しい避難マニュアルが完成している。			S		
	7-2 ＜管理部＞ ・既存棟の定期的な修繕	・既存棟の定期的な修繕のための年次計画を立案し、適切に実行している。			A		

	7-2 <管理部> ・スクールバスのスムーズな運行	・ダイヤ通りの運行がなされ、学生の整列時間減少につながっている。			A		
	7-2 <管理部> ・板橋校舎の喫煙場所・設備の見直し	・新しい場所に新しい設備の喫煙場所が設置されている。			C		
	7-3 <図書館> ・ラーニングコモنزの導入	・ラーニングコモنزのための空間の確保（グループ学習室を両キャンパスに各2室、「節度あるざわめきの空間」を板橋キャンパスに2箇所、東松山キャンパスに1箇所）。図書館主催のイベントを年に2～3回開催。学習支援コーナーの運営	→		A		
	7-3 <図書館> ・入退館システムの導入	・ラーニング・コモنزの利用に関し、統計をとり、学部学科ごとの利用人数や利用時間帯を把握し、学習支援コーナーを充実する			A		
	7-3 <図書館> ・機関リポジトリを構築し、本学刊行の成果物および所蔵の資料を電子化し保管する。	・毎年発行される学内刊行物、博士論文および所蔵資料すべての電子化および保管・公開。	→		A		
	7-3 <図書館> ・逐次刊行物の電子化への移行	・電子化されている学術雑誌の紙媒体から電子媒体への移行が実現している。	→		A		
	7-4 <情報センター> ・情報実習教室の入れ換えと継続的な改善	・仕様の決定(2014年度) ・入れ換えの実施(2015年度) ・評価と改善(2016年度～) ・アンケート等を実施し入れ換後の教室の評価を行う。 ・不具合があれば継続的に改善を行う。			A		
	7-4 <学務部> ・科学研究費補助金に連動した学内競争的研究費制度を整備し、運用することで研究活動を促進する。 また、教員の希望や実態に即した特別研究期間制度、国内研究員および海外研究員制度への転換。	・特別研究費申請、採択件数 ・科学研究費補助金申請、採択件数 ・特別研究期間制度、国内研究員、海外研究員利用状況	→		A		
	7-5 <学務部> ・研究倫理に関する会議体制の見直し。	・「(スポ・健)研究倫理委員会」、「(スポ・健)動物実験委員会」を大学全体の委員会に昇格させ、「(スポ・健)研究倫理委員会」と(学務部)「研究倫理委員会」の二重化体制を解消させ、大学全体による研究体制を再構築する。			S		
	7-5 <学務部> ・責任担当コマ数の再検討	・担当コマ数の見直しに関する検討結果に基づき、責任コマ数やオーバーコマに対する対応が実現し、研究専念時間が確保されている。	→		A		
	7-5 <学務部> ・諸会議・委員会のスリム化	・規則・規程の改廃により、諸会議・委員会の統合、廃止、委員構成の見直し等が実現している。			B		
	7-4 <東松山事務部> ・老朽化したAV機器を計画に従っ	・左記のことが計画どおりに行われてい			S		

	て入れ替える。	る。							
	7-2 <東松山事務局> ・既存棟の定期的な修繕	・既存棟の定期的な修繕のための単年度計画を立案し、適切に実行している。			A				
14 年度 目標	7-1 <学務局長> ・校地、校舎、施設・設備等に関するユーザからの声を聞く	・アンケート調査の実施など(7-1)	→	C					
	7-2 <管理部> ・既存棟の定期的な修繕	・修繕のための年次計画を立案し適切に実行されている。	→	B					
	7-2 <管理部> ・バリアフリー対策の実行	・障がい学生からの意見を聞き、具体策が講じられている。		B					
	7-2 <管理部> ・OA 機器の入れ替えを行う。	・3 年計画の 2 年目として、計画的に入れ替えを実施している。		S					
	7-2 <管理部> ・省エネルギー対策委員会の設置	・エネルギーの使用の合理化に関する法律に則り、委員会規程を制定し、管理委員会を開催する。	→	B					
	7-2 <管理部> ・スクールバスのダイヤ改正	・合理的なダイヤが改正されている。 ・低床バスの増車が実現している。		A					
	7-2 <管理部> ・危機管理体制の構築に向けた検討会議の招集（※幹事は総務課とする）	・検討会議において危機管理体制の構築に向けた検討に着手する。		C					
	7-2 <管理部> ・新しい避難マニュアルの策定に向けた委員会の設置	・新しい避難マニュアルが策定されている。		C					
	7-2 <管理部> ・板橋校舎の喫煙場所・設備の見直し	・新しい設備設置までの暫定措置として、現在の設備の部分的な改善が行われている。 ・新しい設備設置のための予算が確保されている。		A					
	7-3 <図書館> ・ラーニングコモンズの導入のための準備（場所の確保および支援体制の構築、予算請求、職員のレファレンス能力強化、研修会への参加奨励）	・グループ学習室の整備および利用促進のための啓発・広報活動。図書館利用授業の積極的実施を教員へ働きかける。施設費・支払報酬予算の確保。研修会参加延べ人数の増加。	→	B					
	7-3 <図書館> ・機関リポジトリの構築のための規程の整備、先進校の資料収集、人的配置のための予算措置）。NII（国立情報学研究所）既登録コンテンツの本学への移管。	・機関リポジトリに関する図書館内規の整備。支払手数料のための予算の確保。NII（国立情報学研究所）既登録コンテンツの本学への移管終了。学内刊行物の電子化および保管・公開の試行。	→	A					
	7-3 <図書館> ・現在契約中の電子ジャーナルの整理および新規契約。そのための予算措置。	・教員・学生のニーズに沿った適切な電子ジャーナルの契約。	→	B					
	7-4 <情報センター> ・新情報実習教室の仕様の決定。	新情報実習教室の仕様書		S					
	7-4 <学務部> ・科学研究費補助金の申請、採択件数の増加（25 件以上の新規採択）	・科学研究費申請、採択件数	→	C					
	7-4 <東松山事務局>	・初年度の計画に従って実行されている。		A					

	・AV機器の入れ替えを行う。					
	7-5 <学務部> ・自然科学に精通した委員の配置を見直す	・自然科学の専門性をもったメンバーが増えている。	→	C		
	7-5 <学務部> ・研究倫理に適った実験が行われている。 ・研究倫理審査の迅速化を図る	・動物実験委員会、研究倫理委員会が定期的に開催され、左記のことの実現が確認される。	→	C		
	7-5 <学務部> ・(スポ・健) 研究倫理に関する教員の啓発	・研究倫理委員会の出席者数が増えている。		C		
	7-5 <学務部> ・責任担当コマ数等の再検討	・責任担当コマ数等の見直しについて検討がはじまっている。		A		
	7-5 <学務部> ・諸会議・委員会のスリム化	・諸会議・委員会のスリム化に向けた検討がはじまっている。	→	A		
15年度 目標	7-1 <学務局長> ・校地、校舎、施設・設備等に関するユーザからの声を聞く	・アンケート調査の実施など(7-1)	→		B	
	7-2 <管理部> ・既存棟の定期的な修繕	・修繕のための年次計画を立案し適切に実行されている。			A	
	7-2 <管理部> ・スクールバスのダイヤ改正	・合理的なダイヤが改正されている。 ・低床バスの増車が実現している。			A	
	7-2 <管理部> ・危機管理体制の構築に向けた検討会議の招集（※幹事は総務課とする）	・検討会議において危機管理体制の構築に向けた検討に着手する。			C	
	7-2 <管理部> ・新しい避難マニュアルの策定に向けた委員会の設置	・新しい避難マニュアルが策定されている。			C	
	7-2 <管理部> ・板橋校舎の喫煙場所・設備の見直し	・新しい設備設置までの暫定措置として、現在の設備の部分的な改善が行われている。 ・新しい設備設置のための予算が確保されている。			C	
	7-3 <図書館> ・ラーニング commons の充実	・引き続きラーニング・commons 利用促進のための啓発・広報活動および図書館利用授業の積極的実施を教員へ働きかける。 ・学習支援コーナーの運営。積極的な利用促進。	→		B	
	7-3 <図書館> ・機関リポジトリの登録手続きの周知と運用。 登録された成果物の閲覧を容易にする。	・機関リポジトリに関する図書館手続きについて大学図書館 HP に公開。 ・成果物の閲覧が簡便な操作によって行える。	→		B	
	7-3 <図書館> ・現在契約中のオンラインデータベースおよび電子ジャーナルの整理。 ・内規に基づく新規契約の検討。予算措置。	・導入したデータベース及び契約中の電子ジャーナルの利用頻度の上昇、そのための情宣活動。 ・利用頻度の低いものと新規データベース等との適切な入れ替え。	→		B	

	・データベース等の利用頻度を上げるための情宣活動を行う。				
	7-3 <図書館> ・資産となる電子書籍の導入	・電子書籍に関する資産としての購入方法の確立。 ・電子書籍の購入・活用。	A		
	7-3 <図書館> ・本図書館が保有する貴重な資料の展示および HP への掲載に向けた準備。	・展示ケースの購入。 ・展示の実施と HP への掲載。	B		
	7-4 <学務部> ・科学研究費補助金に連動した学内競争的研究費制度を整備し、運用することで研究活動を促進する。	・大東文化大学特別研究費交付規程を改正する	S		
	7-4 <学務部> 研究者向けに、科研費執行説明会、調書作成説明会等を取りまとめた動画サイトを構築する。	・動画サイトを立ち上げ、説明会等のコンテンツをアップする	S		
	7-5 <学務部> ・スポーツ・健康科学部研究倫理審査委員会及び動物実験委員会と全学の研究倫理委員会の関連性をはっきりさせる。	・左記に関する規程改正を行う	A		
	7-5 <学務部> ・責任担当コマ数等の再検討	・就業規則の改正を行う。	S		
	7-4 <学園総合情報センター> 新情報実習教室システムの導入	板橋、東松山、信濃町キャンパスの新情報実習教室システムを2016年3月までに導入する	A		
	7-4 <東松山事務部> ・AV機器の入れ替えを行う。	・初年度の計画に従って実行されている。	S		
	7-2 <東松山事務部> ・東松山校舎1号館の修繕を行う	東松山校舎1号館の修繕が完了している	S		
16年度 目標	7-1 <学務局長> ・校地、校舎、施設・設備等に関するユーザからの声を聞く	・アンケート調査を実施し、データ分析を行う	C		
	7-2 <管理部> ・既存棟の定期的な修繕	・修繕のための年次計画を立案し適切に実行されている。	A		
	7-2 <管理部> ・スクールバスのダイヤ改正	・合理的なダイヤが改正されている。 ・低床バスの増車が実現している。	A		
	7-2 <管理部> ・危機管理体制の構築に向けた検討会議の招集（※幹事は総務課とする）	・検討会議において危機管理体制の構築に向けた検討に着手する。	C		
	7-2 <管理部> ・新しい避難マニュアルの策定に向けた委員会の設置	・新しい避難マニュアルが策定されている。	S		
	7-2 <管理部> ・板橋校舎の喫煙場所・設備の見直し	・新しい設備設置までの暫定措置として、現在の設備の部分的な改善が行われている。	C		

	<p>7-3 <図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JAIRO Cloud に加盟しデータ管理を委ねる。 ・ リポジトリに既に登録が完了したもの以前の成果物について適時的に登録を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JAIRO Cloud に加盟。 ・ 学内成果物の適時的登録数の増加 			A		
	<p>7-3 <図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入退館システムの導入 ・ 安全危機管理 ・ 利用者の把握 ・ 東松山 60 周年記念図書館も併せて準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入退館システムの導入により、利用者数の把握。 ・ 災害時における利用者の所在の確認および学生の利用時間等の利便性を高める。 ・ 東松山図書館における予算化 			S		
	<p>7-3 <図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラーニングコモンズの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習支援コーナーに教員・大学院生のほか、多様な支援者を配置。 ・ 施設としても、多目的な利用を検討する。 			A		
	<p>7-3 <図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年に数回の展示および HP への掲載。 ・ 展示資料のデジタル化試行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重な資料の本格的な展示。 ・ HP への掲載により学生・教員の知的好奇心を刺激し広い教養を涵養する。 ・ これらの保存・記録をするためデジタル化に向けた準備をする。 			A		
	<p>7-3 <図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 逐次刊行物の電子化への移行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、紙媒体で購入している学術雑誌のうち、電子化されているものについては電子媒体への移行を促進する。 			A		
	<p>7-4 <学務部></p> <p>科学研究費補助金の受給件数の増加 (年間 50 件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記の受給件数を達成する 			A		
	<p>7-5 <学務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ・健康科学部研究倫理審査委員会及び動物実験委員会と全学の研究倫理委員会の関連性を明確にする。 ・ 利益相反に関する規程を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記に関する規程改正を行う ・ 利益相反に関する規程及び兼職に関する規程の制定を行う 			S		
	<p>7-4 <学園総合情報センター></p> <p>新情報実習教室システムの安定運用と改善</p>	<p>新情報実習教室システムを安定運用させるためのサポート体制の充実、システム障害、不具合への継続的対応、教員へのアンケートによる教室の評価。</p>			A		
	<p>7-4 <東松山事務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AV 機器の入れ替えを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初年度の計画に従って実行されている。 			S		
	<p>7-2 <東松山事務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東松山校舎 1 1 号館の修繕を行う 	<p>東松山校舎 1 1 号館の修繕が完了している</p>			S		